



肝硬変 (かんこうへん)



肝硬変とは、肝臓が硬くなり働きが悪くなる状態をいいます。

「肝硬変」の「肝」は肝臓、「硬変」は硬く変わることを意味します。つまり、肝硬変は肝臓が硬くなる病気ということが出来ます。

肝臓の細胞が壊れることで、肝臓は硬くなり、縮んでゴツゴツとしたコブだらけになります。それはウイルスやアルコールなどによる肝炎が原因で、肝臓の中の血液循環がうまくいかなくなることに起因します。

肝硬変は自覚症状がないままゆっくり進行する病気ですが、病気が進行すると、食欲不振、下痢などで始まり、腹水、黄だん、むくみ、出血、食道静脈瘤破裂、意識障害などの症状が現れることがあります。

連絡先(医療機関名)